

神奈川県知的障害者施設保護者会連合会ニュース



発行人 神奈川県知的障害者施設保護者会連合会会長 岩本邦雄
編集 神奈川県知的障害者施設保護者会連合会広報部
発行所 〒235-0021 横浜市磯子区岡村3-15-14 岩本邦雄方
神奈川県知的障害者施設保護者会連合会事務局 TEL&FAX 045-751-1010

緊急集会開催される

一月二十一日 横浜開港記念館において福祉施設事業者団体および当事者団体関係者は、『神奈川県緊急財政対策案』に沿って検討されている福祉関係予算の削減について、現行の福祉水準が大きく後退するとして、これを阻止するための緊急集会を開催した。

神奈川県は、先に財政赤字対策の一環として、民間社会福祉施設運営費補助金(支援員確保のための人件費補助)の見直しと関係予算の削減を行ったばかりである。

今回さらに重度障害者医療費補助事業をはじめ民間福祉施設整備に係わる補助金や支援員処遇維持補助金などの削減を検討している。

これが実施されると、障がい者を支援するための環境は著しく損なわれ、これまでの県の福祉施策が大きく後退する。

当日は障害者本人をはじめ、関係者が大ホールを埋め尽くし、各団体の代表者がそれぞれの立場から改悪反対の声を上げ、決議文が採択された。

会は熱気みなぎるうちに閉会となり、続いて参加者全員で県庁を訪れ、代表して、神奈川県知的障害福祉協会会長安藤浩二氏が知事にその趣旨を説明し、決議文を手渡した。



岩本会長の決意表明

神奈川県知事 黒岩祐治様 決議文

神奈川県は、知事の方針に従って緊急財政対策本部が策定した『神奈川県緊急財政対策案』に沿って、福祉関係の予算の削減を検討している。障がいのある人たちの医療と暮らしを保障し、その人らしく安心して暮らせる地域づくりのためにも、現行の福祉水準の維持が必要である。福祉先進県と呼ばれた神奈川の福祉は、このままでは大きく後退する。私たちは、緊急財政対策案に「掲げられた障がい福祉関連事業の改悪に反対するとともに、当事者や関係団体の意見を十分に反映させることを求める。

決議内容

- 障がい者の命と暮らしを保障するための現行制度の維持を求める。
- 障がい者の地域生活を支える事業費の削減や交付金化に反対する。
- 障がい者支援に従事する人材の確保や施設整備などの支援環境を維持するための補助金の削減に反対する。
- 専門性を確保するために必要な県立施設の見直しに反対する。
- 当事者や関係団体の意見を十分に反映させることを求める。

以上、決議する。

平成二十四年十二月二十一日

- 神奈川県手をつなぐ育成会
- 神奈川県肢体不自由児者父母の会
- 神奈川県自閉症児・者親の会
- 神奈川県障害者運動団体連絡会
- 神奈川県知的障害者施設保護者会連合会
- 神奈川県精神障害者地域生活支援団体連合会
- 非営利活動法人神奈川セルペンター
- 神奈川県民間知的障害者施設協同会
- 神奈川県身体障害福祉協会
- 神奈川県知的障害福祉協会
- 神奈川県知的障害施設団体連合会

全施連 関東ブロック協議会開催

本年度最初の関東ブロック協議会は、平成25年1月16日全施連岩本副理事長の司会のもと、一都六県から25人が参加し、東京人形町区民会館で開催された。今回は、昨年8月全施連「施設の在り方検討プロジェクトチーム」による「新しい生活施設の在り方に関する提言書（家族が求める暮らしの在り方）」の策定に深く関わりをもたれた、全施連南副理事長を招いての開催となった。



定刻午前10時、岩本副理事長から本日の議事予定の説明が始まった。会は、冒頭南副理事長から、この提言書はノーマライゼーション思想に裏打ちされた障害福祉に関する全施連の考え

方やそれに基づく知的障害者のあるべき生活の場を提言したものであり、各方面からも大きな反響があった。

この提言の内容を全施連会員（各県連）が等しく理解をして欲しいとの発言があった。

続いて、前文および提言1から4までについて、参加者のそれぞれ別の考え方や現実に起きている事象などについて活発な意見交換が行われ、午後4時30分閉会となった。

神奈川県保連としては、この提言の内容を会員の皆様が十分理解できるように、理事会等で勉強会から始め、Q&Aを用意するなど分かりやすい解説版を発行して改めて皆様に紹介したいと考えています。

やまゆり生涯児者生活サポート協会共催

神奈川県保連学習会開催 交流部会・調査部会

テーマ「利用者の高齢化に伴う悩みと対応について」

日時：平成25年2月3日(日)13時から17時 会場：海老名文化会館

★勉強会

一昨年調査部会は利用者の地域移行と高齢化に関するアンケート調査を行い、その結果を「今、施設と利用者」Ⅲ」として取りまとめた。そして今般、その調査結果を、各保護者会で活用することを目的として、フォローアップ調査を行った。

このフォローアップの内容について、嶋田副会長から詳細な解説説明があり、各施設の地域移行と高齢化問題対応についての状況を勉強した。

★学習会

6グループに分かれ、利用者の高齢化について、次の4つの視点から活発な意見交換を行った
①施設（ホームを含む）の設備面について。
②施設の支援体制・支援内容について。
③認知症・病弱化が進行した場合の取組みについて。
④保護者会等としての取組みについて。

今回の勉強会・学習会は、一昨年実施されたアンケート調査結果をフォローする

ために行われたもので、保護者会あるいは家族が今後これらの課題を施設とどのように共有し、どのように解決策を見出していくのか、その意味において大変重要な勉強会であり、学習会であった。
なお、当日の討議の詳細、まとめについては次号にて報告します。



障害を持つ人たちが病気になったとき、ケガをしたときに備えて

神奈川県保連では、知的障害児者や自閉症児者が病気やケガをしたとき、また、そのために入院したときなどに備え、「やまゆり知的障害児者生活サポート協会」の運営に参加しています。加入資格、その他の詳細は、下記までお問い合わせください。

やまゆり知的障害児者生活サポート協会

〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2 神奈川県社会福祉会館内
TEL 045-314-7716 FAX 045-324-0426